

金沢市における都心部荷捌き駐車場の整備について

金沢市交通対策課
 (株)計画情報研究所
 金沢大学工学部 正会員

○村田康裕
 米田亮
 高山純一

1. はじめに

金沢市では、国道157号の都心部にかかる区間（L=1,655m）を違法駐車等防止重点地域に指定（平成4年12月）することにより、違法駐車による交通渋滞の状況は著しく改善された。しかしその結果、一方では幅員の狭い裏通りにおける荷捌き駐車車両が増大し、歩行環境の悪化等の問題を引き起こしている。

このような事態に対応すべく、平成6年度には都心軸荷捌き駐車実態調査を行い次のような結果を得た。（調査範囲は図1を参照）

- ・国道157号には荷捌きの駐車はほとんど無く、裏通りが荷捌きスペースとして利用されている。
- ・荷捌き車両の駐車時間は半数近くが10分以内であり、8割が30分以内である。
- ・全体の7割が目的施設から20m以内に駐車して荷捌きを行っている。
- ・施設床面積当りの発生量は飲食系の地区において多く、商業系地区では大型の車両による荷捌きが多い。

平成7年度には実態調査の結果をふまえ、都心軸荷捌き駐車場基本計画の策定を行っている。今回はこの基本計画策定に併せて調査した、片町荷捌き駐車場の効果把握について述べる。

2. 調査概要

平成7年3月、金沢市は片町地内において荷捌き駐車場の供用を開始した。片町地区は飲食店や飲食ビルなどが集中しており、金沢市の都心部で最も路上駐車密度が高い地区の一つである。

この荷捌き駐車場の効果把握を行うために、以下の調査を行った。（調査範囲は図2を参照）

- ①荷捌き駐車場の利用状況
- ②周辺道路の路上駐車状況の変動
- ③周辺道路の交通量の変化
- ④荷捌き駐車場利用者アンケート

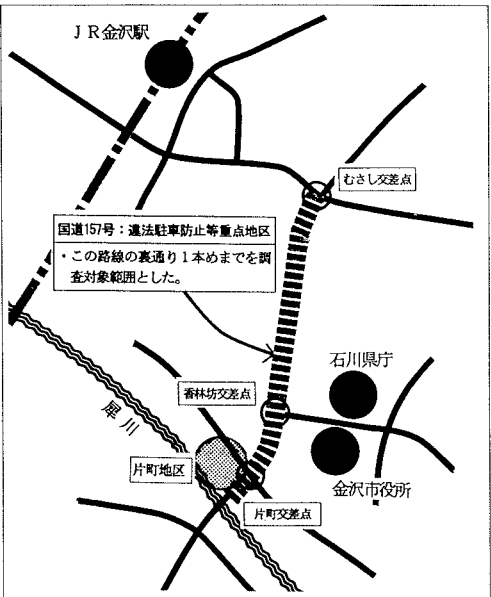


図1 平成6年度実態調査範囲

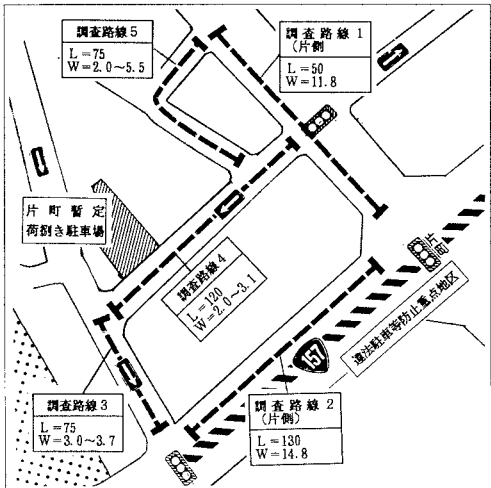


図2 片町荷捌き暫定駐車場効果把握－調査路線

3. 調査結果

①荷捌き駐車場の利用状況

荷捌き駐車場の利用時間は9:00～20:00で、1日当たり90台程度が駐車している。駐車時間は約50%が30分以内であり、約25%が30分～1時間、のこりの25%が1時間以上と、長時間の駐車が多い。また、利用業種は6割強が酒屋であり、以下食品、花、おしぼり業と続いている。

利用者のうち約3割がほぼ毎日利用しており、週に2～3回の利用が約2割、残りの5割は週に1回以下の利用である。さらに、ほぼ毎日利用する利用者のうち3割以上の利用者が1日に2回以上利用している。集配送先までの距離は、平成6年度の調査結果では約15mであったが、今回の調査では、約65mと長くなっている。

②周辺道路の路上駐車状況の変動

図3は全調査路線の駐車台数を、荷捌き駐車場の供用前後で比較したものである。供用後は荷捌き車両の路上駐車台数は半減した。また、削減された台数と荷捌き駐車場における駐車はほぼ同数である。

図4は路線別の駐車状況である。削減効果の高い路線は、荷捌き駐車場に面している路線4と、荷捌き駐車場から近い路線3であり、平均駐車台数で50%以上の削減効果があった。

荷捌き駐車場の影響範囲は当初の予想よりもかなり広範囲で見られ、80m近く離れている路線5においても平均駐車台数が4割以上減少した。

路線1のように重点地域以外の表通りは削減効果が低い。これは、裏通りに入れない大型の車両や、急いでいるため裏通りに入らない車両の駐車が多いためである。

③周辺道路の交通量の変化

路線4の一般車両と歩行者の交通量は供用前と比較して約2倍になった。路上駐車の減少により通行しやすくなったからであると考えられる。尚、荷捌き車両の通行量にはあまり変化が見られなかった。

4. まとめと今後の課題

この効果把握等を参考にして、平成7年度は金沢市の都心軸周辺をゾーン分割し、ゾーン毎に必要な駐車スペースの算出及びスペース確保のための施策の検討を行っている。

また、平成8年度には一部施行を行い、今後の導入の可能性を探る予定である。

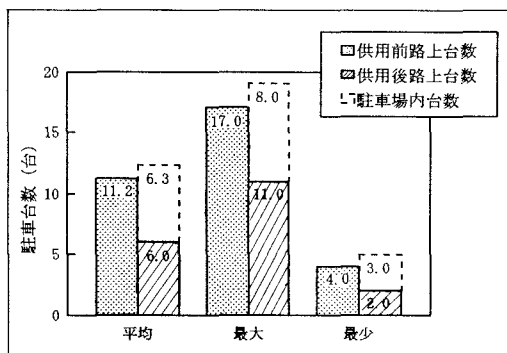


図3 駐車場供用前後の駐車台数

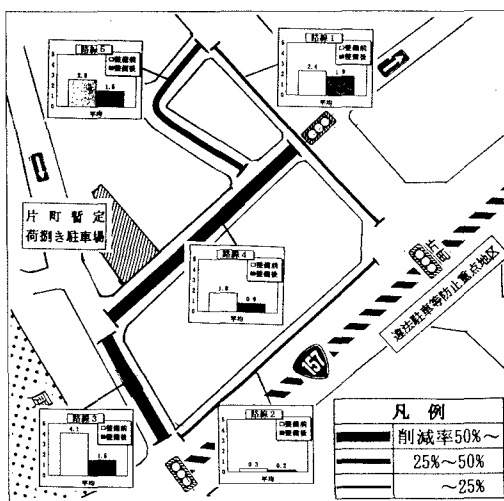


図4 路線別路上駐車状況